

# 大学院ニュースレター

## 久留米大学大学院医学研究科

第102号 / 2022年3月30日発行

編集 / 医学研究科長

### 『君がやらずして誰がやる!?!』

先端癌治療研究センター (がんワクチン分子部門) 教授 山田 亮

これまで商業雑誌からの依頼原稿を数多く書いてきた。30代中頃、米国留学から帰ってきた後しばらくは留学先(ダナファーバー癌研究所/ハーバード大学医学部)での研究の流れで「細胞接着因子」について多数執筆した。それ以降は、もっぱら「がんペプチドワクチン」に関するものであった。どれくらいの数執筆したのかわからないが、その中で一つだけ、はっきりと記憶に残っているものがある。実験医学(羊土社)の2013年1月号に掲載された「がんペプチドワクチンの開発～アカデミアからの挑戦」である。「Bench to Clinic: 研究室と明日の医療をつなぐパイオニアたちの挑戦」というシリーズの1コマで、我々が90年代中頃から始めたがん抗原の遺伝子クローニングから国内初となるがんペプチドワクチンの臨床試験(臨床研究)、更にはベンチャー設立に至るまでの経緯を書いたものである。その中の一節に「われわれがやらずして誰がやる!?!」という大胆な見出しがある。以下そこからの引用である。「当時、世界中で新規がん抗原の同定が行われ、多くの論文が発表されたが、それらの論文は決まって、『がんワクチンへの臨床応用が期待される』で締めくくられていた。しかしながら、多くの研究者はその先の臨床応用へとは動かずに新たな抗原の同定といった並列的な研究を繰り返していた」。

並列的な研究を繰り返す大御所の先生方が見るかもしれないのに、「よくぞここまで書いた!」と感心する次第である。

これはがんワクチン研究に限ったことではない。手を変え品を変え、2匹目のどじょうを狙い、高インパクトファクターの雑誌への論文掲載を目指すのは大いに結構であるし、自分もその手で論文を稼いできた。問題は、その先の臨床応用を意識して研究を行っているかであり、いつかは臨床応用にチャレンジしてやろうという意識を持つことである。

言うまでもなく医学は応用科学であり、研究の最終目的は臨床応用である。研究を進めていく中で新たな発見をするであろう。そこで、更に研究をすすめていこうと思ったとき、いくつかの選択肢に必ず行き当たる。どの道を選ぶかは研究者の自由である。ノーベル賞につながるかもしれないし、袋小路に入り込んでしまうかもしれない。研究者にとって重大な決断を迫られる時である。どこに進むべきか迷った時は、臨床応用を意識すればよい。目先の成果だけでなく、数年、あるいはもっと先の臨床応用を見据えれば、おのずと進むべき道は見える。

多くの研究者と競い合っているテーマであれば自分たちがやらなくてもその分野は着実に進むであろう(もちろん、自分たち

がやった方がもっと早く進むかもしれないが)。しかし、オリジナリティーの高い研究であれば、その先に進めてくれる者はなかなかいない。自分たちで進めるしかないのである。必ずしも思うように進まないこともあるだろう。でも、臨床応用という大きな夢を抱きながらの研究は実に楽しい。ましてや、その夢が実現し、臨床で使われるようになったら……。そんな思いから実用化に向けてのベンチャーを設立した。海外原薬製造元との交渉や国内受託機関での製剤検討・非臨床試験、また、規制当局との交渉、……。どう考えてもアカデミアの研究者のやる仕事とは思えない、そんな貴重な経験を沢山積むことができた。通常の大学人としての教育や研究活動を行ったうえでのエクストラ業務だったので目が回るほど多忙な毎日であったが、夢の実現に向かってワクワクの連続であった。その後、

ベンチャーの社内体制が整備され少し楽になったが、ワクワクは今も続いている。

大学院で指導教員から与えられたテーマをこなしていく中で、研究の意義、将来的な臨床応用への可能性を少しでも良いから意識し続けてほしい。そうすれば必ずや素晴らしい研究成果に出会えるであろう。その時は、実用化に向けてぜひチャレンジしてほしい。

『君がやらずして誰がやる!?』



## 「第23回 久留米大学 学術奨励賞の授与式が執り行われました！」

第23回久留米大学学術奨励賞の授賞者が決まり、3月9日(水)に医学部長室において授与式を挙行了しました。大学院医学研究科では「優れた学位論文に対する表彰制度」を設け、優れた研究業績をあげ本学において学位を取得された方々の中から選考し、「久留米大学学術奨励賞」を授与してその功績を顕彰しております。本年度の授賞者は2名です。今後益々のご活躍と次の世代へのロールモデルとなっていきたいと思います。おめでとうございます。



### 事務通信

#### 令和3年度 成績報告並びに令和4年度 履修希望調査実施について

修士課程・博士課程在学学生を対象に、令和3年度の成績結果一覧を3月下旬～4月上旬に配布する予定です。併せて、各自の履修状況を踏まえ、令和4年度に履修する科目を決定していただき、履修登録を行うための「令和4年度履修希望調査」を実施いたします。書類が届きましたら、速やかに当該年度の履修登録科目を決定し、医学部事務部教務課までご提出ください。

※令和4年度大学院カリキュラムはそれに同封いたします。



## 博士課程の皆様へ

現在、博士課程の学生を対象に「研究題目および研究計画について」、「論文基礎（応用）研究実習実施研究計画について」を送付しております。専攻科目を分担されている方はどちらも2部ずつ送付を行っておりますので、それぞれの指導教授の署名・捺印の上、ご提出ください。未提出者は速やかに医学部事務部教務課までご提出いただくようお願いいたします。

### 第8回大学院医学研究科 学生研究発表会の開催について

令和4年度も学生研究発表会を12月5日（月）・6日（火）に開催します。平成28年度以降の入学生から第2学年もしくは第3学年で必修となっています。近日中にエントリー募集を開始しますので、大学院HPや院生メーリングリストをご確認ください。ご自身の研究の進捗状況を発信し、講座の枠を超えて横断的にフィードバックを得ることができる機会ととらえ、ふるってご参加ください。



### 定期健康診断実施のお知らせ

令和4年度は4月19日（火）～22日（金）（15:00～18:30）の間で行われます。都合がつく日時に受診をお願いいたします。なお、未受診者は各自で受けた健康診断証明書の提出が必要となります。やむを得ない理由で期間中に受診できない場合は、保健管理センター（医学部B棟1階）（0942-31-7690）までご相談ください。

健診期間	令和4年4月19日（火）～22日（金）
受付時間	15:00～18:30
検診場所	筑水会館 1階
健診項目	身長、体重、血圧、胸部X線、内科診察（在学生・新入生） 尿検査、視力、聴力（新入生のみ）

※登校前は必ず体温測定を実施、体調の確認をお願いします。

※社会人学生の方で、令和4年度中に勤務先で健康診断を受診される方は、受診後速やかに健康診断結果の写しを保健管理センター（医学部B棟1階）にご提出ください。

また、本学の職員で6月の職員定期健康診断を受診される方は、今回の学生健診を受ける必要はありません。（但し、6月の職員健診を期間中に受診しなかった場合は、各自受診のうえ（自己負担）証明書を医学部教務課へ提出してください。）

※当日は胸部X線撮影に適した着替えやすい服装で来てください。（ワンピースは不可!）

## 学生駐車場 2 次募集のお知らせ



大学院学生の皆様を対象に学生駐車場（7 番駐車場）の 2 次募集を行います。申し込み希望者は下記に従って、期間内の手続きをお願いします。

1. 申込期間：**令和4年4月4日（月）～令和4年4月13日（水）厳守**
2. 募集台数：18 台  
申し込み多数の場合は選考となります。提出書類に不備があった場合は、選考の対象外となりますので、記入漏れ等のないよう注意してください。  
なお、通学距離が、**大学より片道 2km 未満の場合は申し込みできません。**
3. 提出書類：駐車場使用許可願（※） ・ 誓約書（※） ・ 車検証コピー  
※印の書類については、医学部教務課窓口で受け取られるか、大学院医学研究科 HP（<https://www.kurume-u.ac.jp/site/gmed/>）よりダウンロードしてください。
4. 書類提出先：医学部事務部教務課
5. 使用開始時期：令和4年5月1日～令和5年3月31日
6. 使用許可通知：決定後、本人宛に通知します。
7. 許可証交付予定日：令和4年4月18日（月）～（医学部 B 棟 2F 愛恵会総務部）  
※許可通知時に改めてお知らせします。
8. 料 金：22,300 円

## 後期入学試験結果発表！

令和4年2月15日（火）に行われた後期入学試験の結果は下記の通りです。

	修士課程	博士課程
志願者	7名	9名
受験者	7名	9名
合格者	7名	9名

前期・後期合わせた合格者数は、修士課程が27名、博士課程が16名、入学者数は、修士課程が24名、博士課程が16名です。  
また、今年は修士課程 科目等履修生を1名採用いたしました。



### 編集後記

桜も満開となりいよいよ春到来です。新年度は修士課程24名、博士課程16名の新入生が入学予定です。大学院事務も新体制のもとで、今後も大学院教育の充実を図り、魅力ある大学院づくりを目指して参りますのでどうぞよろしくお願いたします。（林）